

令和4年度 第2回 静岡市立日本平動物園運営委員会議事録

日 時 令和5年3月6日(月) 午後2時00分から午後3時30分まで

場 所 日本平動物園 2階 大会議室

出席者 運営委員：小山委員長、田宮委員、松田委員、桂山委員、矢作委員、永岡委員、高委員
事務局：竹下参与兼日本平動物園長、山本園長補佐兼企画係長、平野主幹兼施設係長、
岡村飼育第1係長、柿島主幹兼飼育第2係長、松下動物病院係長、望月主査、
西岡主任主事

オブザーバー：一般財団法人 静岡市動物園協会 芝原事務局長

傍聴者：なし

内 容

- 1 開会
- 2 園長あいさつ
- 3 議事等
 - (1) 令和4年度の事業実績見込・令和5年度事業計画
 - (2) 令和4年度事業報告
 - (3) 令和5年度事業計画
 - (4) 大型動物導入推進事業について
 - (5) 日本平動物園将来構想(案)について
- 5 事務連絡等
- 6 閉会

< 議 事 録 >

【開 会】

(司会：山本補佐)

会議は公開とすること、傍聴者はいないこと(定員3名としたこと)、委員の出席は7名中7名であることを報告。

【園長あいさつ】

(竹下園長)

今年度の入園者数については、令和2年度、3年度と比較して、回復傾向にはあるが、コロナ禍前の水準までには至っていない。

3月13日からマスク着用の判断が個人に委ねられることとなり、当園も同様の対応を考えている。なお、手指消毒などの基本的な感染対策は継続をしていく予定である。

昨年9月の台風15号の影響により被災したローラースライダーをはじめとする園内施設の復旧については、国等の災害復旧などを活用し、11月及び2月補正にて必要な予算要求をし、順次、

復旧作業に着手している。人気のあるローラースライダーの一日でも早い復旧を目指しているが、被害規模の大きさから、早くとも今年の秋頃を目途に再開する予定で取り組んでいる。

本日は、今年度の実績報告と来年度の事業計画を説明させていただくほか、現在策定中の「日本平動物園将来構想」についても報告をさせていただくので、各委員からの忌憚のない意見を願いたい。

【議 事】

(小山委員長)

規則に基づき議長を務める。会議が円滑に進むよう委員各位の協力をお願いしたい。

次第に沿って項番3の(1)から(4)の令和4年度の事業実績見込及び令和5年度事業計画等の順に事務局より一括説明をお願いする。

【事務局説明】

(説明：山本補佐)

始めに、報告させていただく。

前回の第1回運営委員会において、高委員より「食堂や売店のメニューなど若者にSNS投稿してもらえるようにインスタ映えするようなメニューを開発してはどうか」という意見をいただいた。これについて、食堂、売店を運営している静岡市動物園協会より報告させていただく。

(説明：芝原事務局長)

レストハウスの職員が考案した動物をモチーフにしたメニューを展開している。シロクマカレーをはじめ、カピバラが温泉に浸かっているイメージのシチューやレッサーパンダの尻尾に見立てたオムライスなどがあり、SNSでも投稿がされている。

また、静岡デザイン専門学校の生徒の若者の視点から、様々な商品やサービスの提案をいただいております。具体化するための検討、開発を行っている。

議事(1) 令和4年度事業実績見込・令和5年度事業計画(説明：山本補佐)

資料を基に各項目について補足説明。

① 令和4年度の入園者数について

令和4年度の入園者数は、1月末現在で36万9千353人となっているが、3月5日現在、41万933人となっている。

議事(2) 令和4年度事業報告(説明：山本補佐)

① 入園者数の推移について

2月の見込み入園者数を3万5千人としていたが、結果は3万4千275人。

3月について、徐々に回復傾向にあることから6万人を見込んでおり、今年度の入園者数の総計は、46万5千人程度と考えている。

入園者数が大きく落ち込んだ令和2年度以降、回復傾向にはあるが、コロナ禍前の水準に

戻るには、まだまだ時間を要すると考えている。

② 主な事業実績について（説明：山本補佐）

主な事業実績は記載のとおり。

直近の開催イベントの状況では、2月18日に「レッサーパンダに雪のプレゼント」を実施し、雪と戯れるレッサーパンダの様子に、多くの来園者が癒されていた。

また、3月4日より「春の動物園まつり」も開催している。

③ 教育・環境教育について（説明：柿島係長）

静岡大学教育学部と連携し、SDGs 啓発リーフレットの第2弾を作成した。今回は「レッサーパンダバージョン」とし、そのダイジェスト版を当園のほかレッサーパンダを飼育している62の動物園で活用してもらう予定である。

（説明：山本補佐）

このリーフレットについては、昨年の秋にしずおか焼津信用金庫追手町支店に協力をいただき、パネル展示も行った。

④ 繁殖動物について（説明：山本補佐）

当園では3年9か月ぶりに繁殖したオオアrikイの赤ちゃんは、順調に生育している。

2月26日まで赤ちゃんの名前を募集したところ469件の応募があり、その中から「命名理由」、「静岡市らしさ」、「呼びやすさ」などから決定し、3月11日の命名式で発表する予定。

議事（3）令和5年度事業計画（説明：山本補佐）

令和5年度の事業計画の主要事業は記載のとおりで、これまでどおり動物園の使命である4つの役割について取り組んでいく。

① 「アジアゾウの全身骨格標本」製作

昨年5月に死亡したアジアゾウのシャンティの遺骸から全身骨格標本を製作し、ビクターセンターに展示する。当園の象徴的個体であったシャンティを骨格標本として展示し、将来に渡り教育・環境教育に活用していく。展示開始は、本年末頃を予定している。

② 主な施設修繕

オオアrikイ舎改修工事などを予定している。

③ 災害復旧

昨年9月の台風15号で被災した山頂広場東側斜面については、復旧工事を行い、本年11月上旬頃に完了する見込み。なお、被災した箇所にあったローラースライダーは撤去する。撤去により分断することになるが、利用者の安全性などを確保するため、その間を繋ぐ専用道を整備する。これまで全長390mと同種の構造の遊具としては日本一の長さを誇っていたが、復旧工事等の兼ね合いから完全な復旧には至らず残念である。同施設は、園内の人気遊具施設のひとつでもあることから、来園者の利用に供せるよう早期の再開を目指す。

議事（4）大型動物導入推進事業（説明：山本補佐）

前回の委員会の説明と同様に、タイ王国等の状況は変わらず、また新たな交渉先となる他の原産国への現地調査も再開しているが、現時点においては特段の進展はない。

来年度も、引き続き導入の可能性について調査をしていく。

議事（5）令和4年度日本平動物園来園者アンケート（説明：山本補佐）

今後の園運営の参考とするため毎年度実施しており、今年度は昨年12月10日から今年2月26日まで実施し、1,039件の回答があった。

アンケート結果の主項目の速報値は、配布資料のとおり。

当園の満足度については、「満足」「やや満足」の合計が約97%と大変高い評価をいただいた。参考に令和3年度の結果も併記したが、昨年度と比較して大きな変化はなかった。

自由記載意見も多数いただいたので、確認、分析を行い、今後の園運営の参考にしていきたい。

事務局からの説明は以上。

【 質 疑 応 答 】

（小山委員長）

事務局の説明について質疑を行う。

（高委員）

市内に新たな水族館ができるが、それによる入園者数への影響などはどう考えているか。

（事務局：竹下園長）

水族館のオープンにより市内に新たな訪問者が増加することが想定される。お互いが奪い合うという形ではなく、例えば共通券などの導入により、施設間等の回遊性を高め、うまく相乗効果を得られるよう考えていきたい。

（高委員）

共通券では、動物園、水族館を回るには時間が足りない。利用者割合の多いファミリー層では子どもが疲れてしまい難しいと思う。

（事務局：竹下園長）

当園もゆっくりと回れば2～3時間程度かかる。水族館の規模感や滞在時間等にもよるが同程度かとは思われる。現時点では具体的な方策は決定していないが、いずれにしても集客を狙える仕組みを検討していきたい。

（永岡委員）

今年度の目標来園数は何人か。

（事務局：山本補佐）

予算上の入園料などの収入ベースでは52万人。令和4年度の入園者数は46万5千人程度を見込んでいる。

(桂山委員)

動物園のPRなどの広報はどのようにしているか。また、日本平周辺の施設との連携についてはどうか。

(事務局：山本補佐)

動物園のイベントなどについては、ホームページやSNSなどでの広報ほか、動物園まつりなどの大規模なイベントは、チラシ配布を実施している。市内や近隣市のほか山梨県方面のこども園や小学校などで、全児童、園児あてに配布している。

そのほか、公共交通広告なども実施している。

当園としても市内の施設との連携は重要と考えており、内容はその時々ではあるが、スタンプラリーや民間企業との共催企画など、施設同士の点と点を繋ぐ取組みを実施している。

(田宮委員)

レストハウスについて、メニューに桜えびなどの地元食材を活用してはどうか。あと、レストハウスの入口が分かりにくいと思う。

子どもの入園者数が思ったより少ないように思うので、子どもの入園者がもっと増やせないか。

(動物園協会：芝原事務局長)

メニューへの地元食材の活用とレストハウスへの案内看板の設置などを検討していく。

(事務局：山本補佐)

年間を通して、家族だけでなく、小学校やこども園などの遠足で多くの子どもたちが来園してくれている。今年度、初めて当園の公式キャラクター「レッピーくん」のお絵描きコンテストを幼稚園、こども園、保育園向けに実施し、50を超えるこども園からおおよそ4,000人の園児が参加してくれた。現在その作品をデジタルセンターで掲示しているが、それを見に来園してくれる家族も多い。今後も人の流れる仕組みを研究、検討していきたい。

(矢作委員)

ローラースライダーが分断される形での復旧となるとのことだが、料金体系はどうなるのか。

(事務局：竹下園長)

現在検討中であるが、現時点では現状維持の予定。

(矢作委員)

個人的な意見だが、レストハウスの案内などの看板はあまり目立つ物にしてしまうと、主役である動物や自然の豊かな環境が崩れてしまうので、雰囲気を保てるようにしてもらいたい。

(松田委員)

先日、上野動物園のパンダが中国に返還されたが、動物の移動が多いことを知った。飼育動物の高齢化により、今後導入の難しい動物もあると思うが、動物の移動の現状などについて聞きたい。

(事務局：竹下園長)

主な動物の移動は、繁殖のための移動が多い。当園を含め、全国の多くの動物園や水族館は日本動物園水族館協会に加盟しており、計画的に繁殖を推進するために、どの動物種を飼育し、繁殖を推進していくかを決めるコレクションプランというものを同協会が定めている。これに基づき、各園館が担当する動物種について、該当する動物を飼育している園間で繁殖のためのブリーディングローンという動物の貸し借りの契約を行い、移動することが多い。なお、当園ではレッサーパンダとオオアリクイを担当している。

(小山委員長)

このほか質疑がなければ、次の議題に進ませていただきます。
続いて、次第3(5)の日本平動物園将来構想(案)だが、この構想(案)策定には私もオブザーバーとして参加させていただいた。
それでは、事務局より概要説明をお願いします。

議事(6) 日本平動物園将来構想(案)(説明：山本補佐)

動物園を取り巻く環境は、種の保存、教育・環境教育、調査・研究、レクリエーションの4つの使命はもとより、ますます高まる『動物福祉』への対応が求められており、また開園から50年を経過し、獣舎施設の老朽化や飼育動物の高齢化など様々な課題がある。

こうした課題に対し、当園の将来あるべき姿について検討するため、プロジェクトチームを発足し、「次期将来構想」を策定している。プロジェクトチームには、園職員のほか、市関係課及び公募職員を迎え、幅広い視野で検討してきた。また、動物園経営に造詣が深い帝京科学大学の佐渡友先生と運営委員会を代表して小山委員長にも、アドバイザーとして参加していただいた。

この将来構想(案)は、当園が目指すべき方向性を示していくものであるため、各委員からも意見等をいただき、盛り込んでいきたいと考えている。

今後は、これまでの意見等を集約し、年度末までに素案の完成を目指しており、令和5年度上期にパブリックコメントを実施し、意見聴取を反映後、秋頃の策定を予定している。

【 質 疑 応 答 】

(小山委員長)

事務局の説明について質疑を行う。

(永岡委員)

将来的な施設のイメージでもワクワク感がある。地元の動物を展示する「しずおか自然学習館」は地域の身近な動物を見られることから、環境教育や研究に役立つ。来園者が楽しむだけの施設ではなく、学びの場となるようにしてもらいたい。そのためにも、近隣のふじのくに地球環境史ミュージアムや将来できる水族館などとの連携を強化していただきたい。

(事務局：山本補佐)

永岡委員からは、事前に意見等をいただいております、その内容を可能な限り反映していきたいと考えています。また、動物園の役割として地域への貢献や調査研究が重要であるとも意見をいただいておりますが、現在も多く大学の研究機関とも連携をしているので、そのあたりも盛り込んでいきたい。

(事務局：柿島係長)

「しずおか自然学習館」については、動物の生息範囲は広いと、静岡市に限定した形ではなく少し広い範囲で考えています。今の日本平動物園には、地域に生息している動物展示が少ないので、そのあたりを充実していきたい。市の鳥であるカワセミの展示なども候補に挙がってくると思う。

(田宮委員)

鳥インフルエンザなどへの対策や動物とのふれあいイベントはどうなっているのか。

(事務局：柿島係長)

小動物とのふれあいイベントは、現在通常開催しているが、整理券方式で人数、時間を制限している。具体的には一定人数で15分程度の4サイクルを午前、午後で実施しており、コロナ禍の感染対策と動物への負担を考慮した動物福祉の観点からそのような対応としている。

(事務局：松下係長)

現在、鳥インフルエンザの流行に伴い、対策をしている。野生の鳥との接触等を防ぐことが一番であるため、獣舎への防鳥ネットや消毒マットの設置、鳥類の獣舎の一時閉鎖や展示休止のほか、上の池でのエサやりを中止している。基本的には鳥類との接触をしないことを徹底すれば問題はない。

(高委員)

入園料等以外の収入はどのようなものと考えているのか。

(事務局：山本補佐)

動物園を応援していただける方からの寄附金や創設を予定しているサポーター制度を想定している。このほか、個人だけではなく、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングの活用なども考えられる。

(高委員)

定期的な収益の確保という意味で、例えば動物をモチーフにした商品などの販売を行い、そのライセンス料を得るといったこともあると思うので、検討してもらいたい。

(事務局：山本補佐)

当園キャラクターの「レッパーくん」などの活用を含め、検討していきたい。

(松田委員)

子どもたちは動物が近くで見られるとうれしいと思うので、そうした施設への配慮をしてほしい。また、駐車場の増設は考えているのか。

(事務局：竹下園長)

動物が近くで見られることで、来園者に楽しんでもらえると思うが、動物福祉の観点なども踏まえ、総合的に考えていきたい。

駐車場については、将来構想案における施設整備により駐車場の不足が想定される。風致地区などの規制もあるが、立体化などを含め検討していく。

(矢作委員)

各章で示している内容について、分かりやすいフレーズがあると市民が理解しやすいと思う。

(事務局：山本補佐)

検討していきたい。

(矢作委員)

ゾウの導入について調査、交渉をしているようだが、動物が先か、施設が先か。

(事務局：竹下園長)

導入交渉する上では、獣舎施設があることがスムーズであることは事実。一方で、多額の経費を投じて作った方がいいが動物が来ないのでは困るので、現実的には、導入の可能性調査と受け入れるための施設整備の準備を並行して進めていかざるを得ないと考えている。

(桂山委員)

子供たちにとって、動物園は生き物と触れ合える貴重な場所。人と動物との関わり合い、環境を考える学びの場としての価値を高めてもらいたい。

(松田委員)

ゾウの繁殖は難しいのか。

(事務局：岡村係長)

最近では名古屋の東山動植物園で繁殖があったが、国内全体の繁殖総数は多くない。

(事務局：竹下園長)

繁殖のためには、群れでの飼育とそれに見合った獣舎施設、飼育技術が必要となるため、難しい動物である。

(小山委員長)

このほか質疑がないようなので、最後に私から。

将来構想策定のプロジェクトチームに参加させてもらい、様々な部署の職員の方と一緒にワークショップをやらせていただいたが、本当に皆さん真剣に色々な意見を出された。また、佐渡友先生からは世界の色々な動物園のことを教えていただき勉強にもなった。日本の動物園との違いを知れたが、ただそれを真似すれば良いという訳ではなく、日本平動物園らしい良いものをこの将来構想で示してもらえればと思う。

これで終わりとさせていただく。